

日本補綴歯科学会第 124 回学術大会（大宮）基礎実習改善のための 情報交換に関する報告

大川周治^a，岡本和彦^a，河野文昭^b，田中昌博^c，村田比呂司^d，
北川 昇^e，楨原絵理^f，矢谷博文^g

Report of the Session on Information Exchange of Basic Clinical Training for Prosthetic Dentistry
Held in the 124th Annual Meeting of Japan Prosthodontic Society on the May 30 and 31, 2015

Shuji Ohkawa, DDS, PhD^a, Kazuhiko Okamoto, DDS, PhD^a, Fumiaki Kawano, DDS, PhD^b,
Masahiro Tanaka, DDS, PhD^c, Hiroshi Murata, DDS, PhD^d, Noboru Kitagawa, DDS, PhD^e,
Eri Makihara, DDS, PhD^f and Hirohumi Yatani, DDS, PhD^g

抄 録

補綴臨床基礎実習は、診療参加型臨床実習の充実を図る上で重要である。各大学における補綴臨床基礎実習の担当教員を対象として、同実習の現状と問題点についての意見交換（ワークショップ）がすでに企画、報告されてきた。しかし、各大学における同実習の具体的な内容について、各大学の指導教員自身による確認と情報交換を希望する意見が少なくなかった。

今回、公益社団法人日本補綴歯科学会第 124 回学術大会（大宮）において、各大学に対して事前に参加を依頼し、歯科補綴学の基礎実習書の展示とともに、基礎実習改善のための情報交換会を企画・実施した。

アンケートの結果から、教員の数と質、コマ数、評価のあり方、実習内容など、基礎実習における問題点がいくつか提示された。また、基礎実習改善へ向けて、導入を検討した項目についても種々の記載がみられ、本企画による効果は少なからずみられたと推察される。ただし、回答数自体は極めて少なく、今後、同様な情報交換を行う場合は、運営の方法や情報の整理に努める必要があると思われた。

キーワード

歯科補綴学基礎実習，情報交換，実習書展示，歯学教育

^a 明海大学歯学部機能保存回復学講座歯科補綴学分野

^b 徳島大学大学院医歯薬学総合研究部総合診療歯科学分野

^c 大阪歯科大学有歯補綴咬合学講座

^d 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科歯科補綴学分野

^e 昭和大学歯学部高齢者歯科学講座

^f 九州歯科大学口腔機能学講座顎口腔欠損再構築学分野

^g 大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座クラウンブリッジ補綴学分野

^a Division of Removable Prosthodontics, Department of Restorative & Biomaterials, Meikai University School of Dentistry

^b Department of Comprehensive Dentistry, Institute of Biomedical sciences, Tokushima University Graduate School

^c Department of Fixed Prosthodontics and Occlusion, Osaka Dental University

^d Department of Prosthetic Dentistry, Graduate School of Biomedical Sciences, Nagasaki University

^e Department of Geriatric Dentistry, Showa University School of Dentistry

^f Division of Occlusion & Maxillofacial Reconstruction, Department of Oral Function, School of Dentistry, Kyushu Dental University

^g Department of Fixed Prosthodontics, Osaka University Graduate School of Dentistry

I. はじめに

診療参加型臨床実習充実のために、各大学は試行錯誤を繰り返しながら、歯科補綴学の基礎実習（以下、基礎実習）の改善のための努力を日々重ねているのが現状である。そこで、日本補綴歯科学会教育問題検討委員会では、各大学の基礎実習改善状況を共有し、そのさらなる改善と充実を図るために、同実習の現状と問題点についての意見交換を目的とした歯科補綴学基礎実習の担当教員対象のワークショップ（クラウンブリッジ補綴学臨床基礎実習改善ワークショップ、部分床義歯学臨床基礎実習改善ワークショップ¹⁾）を実施した。ワークショップ実施後アンケートでは、各大学における基礎実習の具体的な内容についての情報交換を希望する意見が少なくなかった。そこで、第124回学術大会（大宮）において、歯科補綴学の基礎実習書の展示および情報交換用ポスターの掲示を事前に依頼し、各大学の指導教員が一堂に会し、第124回学術大会参加者とともに基礎実習改善のための情報交換を企画、実施した。

II. 情報交換の概要

1. 参加校数：28 大学
2. 開催場所：大宮ソニックシティ地下1階の第3, 4 展示室
3. 情報交換の日時：
 - 平成27年5月30日（土）9：30～18：00
 - 平成27年5月31日（日）9：00～15：20
4. 情報交換の方法：情報交換がなされている様子を図1に示す。
 - 「基礎実習書・マニュアル」の展示、「情報交換用ポスター」の掲示（図2）
 - 発表者との質疑応答（30分）、質疑応答内容の掲示、アンケート（図3）への回答
5. アンケート調査の結果（回答総数34件）
 - ※回収数が極めて少なかったため、件数に関して数字（カッコ〔〕内）で示した。
 - 1) 役職
 - 教授 [1], 准教授 [8], 講師 [4], 助教 [14], 医員 [1], 非常勤 [1], 大学院生 [5]
 - 2) 年齢層
 - ～30歳 [6], 31歳～40歳 [13], 41歳～50歳 [8], 51歳～60歳 [6], 61歳～ [1]
 - 3) 担当科目（重複あり）



図1 基礎実習改善のための情報交換の会場
多くの参加者が集まり、活発に質疑応答している様子が見える。



図2 情報交換用ポスター（例示）

- 全部床義歯学 [10], 部分床義歯学 [9], クラウンブリッジ補綴学 [13], インプラント補綴学 [5]
- 4) 貴学の実習で問題と思われる点
 - (1) 教員
 - 教員数が足りない [7], 教員によって教育内容に差が生じる [1], 若手教員の技量が不足

公益社団法人 日本補綴歯科学会第 124 回学術大会 企画アンケート
— 「基礎実習改善のための情報交換」について —

本企画にご参加いただきありがとうございます。お手数をおかけいたしますが、各大学における歯科補綴学基礎実習のさらなる改善のために、以下の質問にお答えください。
(公社) 日本補綴歯科学会 教育問題検討委員会

以下の質問について、各々該当する項目に○印をお付けください。

I. あなたは、
・大学教員（教授 准教授 講師 助教 医員 非常勤教員 その他 []）
・研修医 ・大学院生 ・歯学部学生 ・開業医 ・勤務医 ・その他（ ）

II. あなたの年齢は、（ ～30歳 ・ 31歳～40歳 ・ 41歳～50歳 ・ 51歳～60歳 ・ 61歳～ ）

III. 歯科補綴学基礎実習のライターを、現在、担当されていますか？（ はい いいえ ）
・ “はい”と回答された方の担当科目は？（Cr・Br 部分床義歯学 全部床義歯学 インプラント）

IV. 貴学の基礎実習で優れていると思われる点は
.

V. 貴学の基礎実習で問題と思われる点は
.

VI. 他大学の基礎実習で優れていると思われた点は
・実習内容 ・評価方法 ・実習書 ・視覚素材 ・教材（実習書、視覚素材を除く） ・その他
【具体的に記載ください：]

VII. 貴学の基礎実習で、ここ数年の間に改善された点がありますか？（ はい いいえ ）
“はい”と回答された方、具体的に記載ください：

VIII. 貴学の基礎実習に導入してみようと思われた具体策について
・実習内容（ ）
・評価方法（ ）
・実習書（ ）
・視覚素材（ ）
・実習書、視覚素材以外の教材（ ）
・特に、参加型臨床実習につながると思われる具体策があればお書きください。

その他、ご自由にお書きください。
【]

ご記入後は、会場出口のアンケート回収箱にお入れください。 貴重なご意見をありがとうございました。

図 3 基礎実習改善のための情報交換に関するアンケート調査用紙

- している [1], 1 講座で全て教えている [1]
- (2) 実習時間
コマ数が少ない [5], 最後まで終わらない [3]
- (3) 実習内容
技工術式に時間をかけすぎている [2], 技工が少ない [1], フレームワークを作成していない [1], 相互実習がない [1], 臨床手技が少ない [1], CAD/CAM の実習がない [1], 実習帳がカラーでない [1]
- (4) 評価
客観的評価が難しい [3], 習熟度の確認が難しい [1]
- 5) 貴学の基礎実習で、ここ数年の間に改善された点 (記載例)
- (1) 新しい教育項目の導入 (治療計画立案, 医療面接, CAD/CAM, マネキン上での筋圧形成, ファイバーポストによるレジソコア)
- (2) 実習書の改訂 (わかりやすく, カラーに変更など)
- (3) 評価方法の変更 (詳細は不明)
- (4) チェアサイドでの実習に重点をシフト
- 6) 貴学の基礎実習に導入してみようと思われた具体策について (記載例)
筋圧形成用の模型導入, 1 回法インプラントの実習, デジタル評価, 学生自身による達成度の自己評価, i-Pad の応用, カラー資料の追加, e-learning の導入, ビデオの作成, DVD の配付など
- 7) 自由回答
「もう少し, しっかりとした情報交換ができるシステムにしてほしい。」
「発表形式をある程度統一して, 比較しやすいようにしてほしい。」
- アンケートの結果から, 教員の数と質, コマ数, 評

価のあり方、実習内容など、基礎実習における問題点がいくつか提示された。また、改善された点については、新しい教育項目の導入や実習書の改訂、評価方法の変更など、各大学で種々の試みがなされていた。基礎実習改善へ向けて、導入を検討した項目についても種々の記載がみられ、本企画による効果は少なからずみられたと推察される。しかし、アンケート用紙への記載内容とともに、回答数自体は極めて少なく、また他大学との情報交換の時間がもう少しほしい、との声も少なくなかった。

学会発表の時間や他大学の発表を聴く時間を妨げないように、あえて発表者を一定時間拘束しないことで、自由に意見交換できるようにと配慮したが、結果的には情報交換に支障が生じてしまったのかもしれない。今後、同様な情報交換を行う場合は、ポスター発表と同様、科目ごとに発表時間を設定したり、質疑応答に関する記録やアンケートの回答を徹底するなど、運営の方法や情報の整理に努める必要があると思われた。

III. おわりに

今回、28大学の協力を得て、基礎実習書の展示、および情報交換用ポスターの掲示を行っていただいた上で、各大学の指導教員が一堂に会し、第124回学

術大会参加者とともに基礎実習改善のための情報交換を行うことを企画・実施した。図1の様子から、活発な情報交換がなされたと推察されるが、情報交換された実態を的確に把握するまでには至らなかった。同様な基礎実習改善のための情報交換を実施する場合の反省点として引き継ぎたい。補綴臨床基礎実習の改善をめざして、今後も学術大会において基礎実習改善のための企画を実施し、診療参加型臨床実習の充実に繋げていかなければならない。

利益相反

開示すべき利益相反はない。

文 献

- 1) 安陪 晋, 河野文昭, 河相安彦, 池田和博, 北川 昇, 西 恭宏ほか. 平成24年度日本補綴歯科学会主催部分床義歯学臨床基礎実習改善ワークショップ報告. 日補綴会誌 2013; 5: 149-155.

著者連絡先: 大川 周治

〒350-0283 埼玉県坂戸市けやき台1-1

Tel: 049-279-2764

Fax: 049-279-2747

E-mail: ohakawas@dent.meikai.ac.jp